

萩城から移された初代藩主、毛利秀就（1505-1651）とその妻の墓に加えて、大照院の墓地には、石の鳥居が建つ 6 組の大きな墓がある。これらの墓は毛利家の偶数代（2,4,6 代）とその妻の墓である。また、各藩主の家族や家臣を祀った墓が並んでいる。

これらの墓の周りには何百もの石燈籠が並び、家臣の今も変わらぬ忠誠をしめしている。灯籠の穴は紙でふさがれ、祖先の霊を弔うお盆の 8 月 13 日に点燈されている。灯籠に彫られた形は三日月のものもあれば、円形の穴もあり、それは太陽をしめしている。